



YU-INFORMATION
2012 MAY No.107
山口大学広報誌

新執行部体制スタート

学長インタビュー

新執行部体制になって目指す山口大学の姿とは

執行部のメンバーと任務

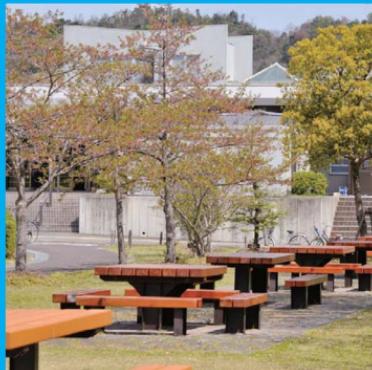
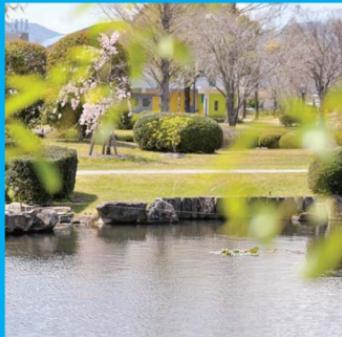
新執行部体制の紹介

就任にあたっての抱負を語る

新理事・新副学長からのメッセージ

平成23年度の山口大学の主な取組事例

平川地域での本学の連携活動





YU-INFORMATION
2012 MAY No.107



「志」つなぎ 伝える 二百年

山口大学は、長州藩士・上田萬陽によって1815年に創設された私塾山口講堂を起源とし、明治・大正期の学制を経て、1949年に、地域における高等教育および学問研究の中核となる新制大学として創設されました。来る2015年には、山口講堂創設から創基200周年を迎えます。

山口大学は、地域に根差した大学として、さらなる充実と飛躍を期し、次なる100年をより意義あるものにするための記念事業を計画しています。



<http://www.yamaguchi200.jp/>

テーマ

新執行部体制スタート

新年度を迎え、山口大学では4月から
理事・副学長が変わり、
新しい執行部体制でスタートしました。
教育・研究・財務・国際化…。
あらゆる面から大学を改革していくことで、
世界レベルで競争できる大学になることが
今、求められています。
そこでYU-INFORMATION5月号では、
本学の新執行部体制の紹介と、
これから目指す山口大学の姿についてご紹介します。

CONTENTS

■特集 1	01
新執行部体制スタート	
学長インタビュー 「新執行部体制になって目指す山口大学の姿とは」	
新執行部体制の紹介	
新理事・新副学長からのメッセージ	

■特集 2	06
平成23年度の山口大学の主な取組事例	
平川地域での本学の連携活動	

■連載企画	08
考える就職活動	
【平成24年度 第1回】報道仕事をするということ	

■年間企画	09
NEWS & TOPICS	
こちら YU-PRSS !	

YU INFORMATION

YUイニフォーメーション

山口大学広報課 第17号

山口大学秘書部広報課

〒755-8511 山口県山口市吉田 1677-1

TEL 083-933-5007 FAX 083-933-5013

E-Mail : sh011@yamaguchi-u.ac.jp

URL : <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集発行／山口大学広報委員会

西川理穂（環境・総務企画部企画課課長）／木下孝郎（文部科学省）／草薙直生（教育学部）／

平野和也（理学部）／木下洋一（理学部）／大曾根由仁（医学部）／

山本忠夫（工学部）／竹内洋子（農学部）／吉田義久（生命科学院）／

何謙毅（大妻教育機構）／井井良吾（大学研究活性化課）／

小畠忠加久哉（大学情報機構）／黒川東洋（エクスランクションセンター）／

山中昌（アドミッションセンター）／向山克志（大学技術経営研究科）／

橋本和也（秘書部広報課）

企画・編集・撮影・デザイン／マルニ

印刷／マルニ

学長インタビュー
**新執行部体制になって目指す
 山口大学の姿とは**



国立大学法人山口大学長

丸本 卓哉

Marumoto Takuya

1967年九州大学農学部農芸化学生卒業。農芸化学
 山口大学助手、助教授、教授を経て、2004年に理事・
 副学長、2006年に学長に就任。2010年…源選・南味は
 武道(空手道7段)…山口市出身、岐阜県育成。

**新執行部体制となって
 期待すること**

4月から新しい執行部体制となりました。8名の理事・副学長のうち、5名のメンバーが変わりました。副学長はそれぞれの専門分野での業務を遂行してもらいますが、理事には加えて大学の管理運営にも携わっていただきます。優秀な先生ばかりなので期待しています。執行部全体が横の連携を図り、情報を共有しながら、大学の方針をしっかりと決定していく体制をとります。私は率先してリーダーシップを發揮しますので、副学長のみなさんには、なんとかがんばってついてきてほしいですね。

**優秀な学生を輩出するために
 大学に求められること**

大学の果たす役割は人材育成です。優秀な学生ができるだけたくさん輩出することが大学に求められます。その人材育成のベースには研究があります。研究が世界でもトップレベルであれば、世界レベルの教育ができます。そして、その研究成果を使い、社会に貢献するのです。大学の使命は教育、研究、社会貢献の3つで、いずれも人材を育成するに重要な要素です。これからも山口大学は、先生と学生が一緒になって育つ「共育(きょういく)」によって優秀な学生の輩出を目指していきます。

**あらゆる視点から
 大学の国際化を目指す**

以前から進めている大学改革が大

事な時期に入ってきた。早く大学改革を進めていかないと世界と戦える大学になりません。社会でも異文化を理解した上で活躍できる人材が求められています。山口大学は国際化の観点から見て遅れていると思われます。山口大学から海外に留学する学生数は減少し、海外から山口大学に留学する学生数は横ばいであります。世界中の人と議論し、競争しながら学術レベルを上げていかないと山口大学は勝ち残っていくことはできません。

大学が国際的に競争できるようにするには、学問のレベルを上げることが必要になります。少なくとも英語でコミュニケーションできる人材を育てていかなくてはいけません。経済学部観光政策学科はTOEICで600点以上とらないと卒業できないようになっています。将来的には観



光政策学科だけではなく、学生全体の平均得点が TOEIC 600 点になるようを目指したいですね。また、学生だけでなく教職員も国際化していく必要があります。先生方は短期、長期で勉学や研究に行ったり、職員も外国を体験したり、語学を習得したりと、キャンパス全体が国際化のスキルを上げていくようにしたいですね。

山口大学が他国の大学と共同で進めている学術交流や協力関係をもつと積極的に進めていく必要もあります。提携大学の一部に山口大学のサテライトオフィスを作っていますが、それだけでは不十分だと感じています。そこで今年から、提携大学の協力のもと、海外の留学生が受験する際に自国で試験を受けることができる渡日前試験を実施することにしました。受験生にとっては、試験のために日本に来るお金を使わなくて済むので経済的な負担が軽減され、優秀な学生が来てくれるのではないかと思います。今年はまず、サテライトオフィスのある中国で実施する予定です。うまくいけば、ベトナム、台湾、インドネシアなど他国でも実施したいと思っています。

新しいことに取り組まないと、国際化はなかなか進みません。現在、考えているのは、留学生と日本人学生が同じ寮に入ることです。日本人学生が留学生とできるだけ交流できる機会を創出します。また、夏休みのう

ち 40 日間山口大学に体験入学できるサマープログラムを世界中から募っていますが、毎年約 40 人が方が来ています。彼らが山口大学の学生生活や日本文化を体験して自國に帰った後、山口大学への入学を視野に入れてくれるよう願っています。確実なステップを踏みながら留学生を増やしていくよう努めています。

共同獣医学部の設置で 獣医学教育が一層充実

新たな動きとして、今年から鹿児島大学と共同で共同獣医学部を設置し、獣医学教育の充実と、世界に通用する獣医師を育てる環境を作りました。日本の大学には、獣医学科はたくさんありますが、国立大学で獣医学部があるのは北海道大学だけです。鹿児島大学と共同での設立によって、規模はこれまでの倍になり、教職員も 70 名以上になりますので、充実した獣医学教育ができるようになります。今後は、日本ではまだどこも取得していない、獣医学教育の国際認証の取得を目指します。

適切な予算配分で 研究活動を支援

財政状況については、運営費交付金がこの 8 年で約 20 億減っていて、

今後もどんどん厳しくなることが予想されます。教育研究の資金が減れば様々な活動が縮小してしまったり、教職員や役員の給与カットによりモチベーションが下がったりします。なんとか影響が出ないように減額を防ぎたいと検討しているところです。適切な予算配分と外部資金の増加のための戦略を立てていきます。特に、先生方の活動をきちんと評価し、将来の山口大学を代表するような研究には重点的に配分していく、先生も外部資金をできるだけ持ってきていただこうように研究活動を支援していきます。35 歳以下の若手の研究者で優秀な方々がいますので、若い人にがんばってもらいたいですね。

創基200周年を目指して 記念事業活動を再開

2015 年に山口大学は創基 200 周年を迎えます。200 年を迎えるのは、日本では東京大学、東北大に継いで 3 番目で、評価していいことだと思います。昨年は東日本大震災の影響で事業を自粛していましたが、4 月から活動を再開しました。創基 200 周年を学生、教職員、地域と一緒にになって祝い、次の 100 年につなげていきたいですね。

新執行部体制の紹介

理事・副学長 8人のうち、3人が再任、5人が新任となり、4月から新しい執行部体制でスタートしました。丸本卓哉学長が掲げる方針をそれぞれの担当部門に展開し、円滑な大学運営とさらなる大学改革を進めていくことが期待されています。



西田 輝夫

Nishida Teruo

理事・副学長（総務企画担当）

- （所掌事項）
 - ・予算編成
 - ・財務管理
 - ・財務会計
 - ・財産管理
 - ・施設マネジメント
 - ・財務施設関係危機管理



吉井 一雄

Yoshii Kazuo

理事・副学長（人事労務担当）

- （所掌事項）
 - ・安全衛生
 - ・労務管理
 - ・人件費管理（大学教育職員を除く）
 - ・訴訟
 - ・人事労務関係危機管理



村田 秀一

Murata Hidekazu

理事・副学長（財務施設担当）

- （所掌事項）
 - ・予算編成
 - ・財務管理
 - ・財務会計
 - ・財産管理
 - ・施設マネジメント
 - ・財務施設関係危機管理



纒纒 厚

Kouketsu Atsushi

理事・副学長（教育学生担当）

- （所掌事項）
 - ・入学・卒業・修了、学位の授与
 - ・教育課程、課外活動、FD
 - ・留学生支援
 - ・就職等進路
 - ・教育学生関係危機管理



三池 秀敏

Miike Hidetoshi

理事・副学長（学術研究担当）

大学研究推進機構長

- （所掌事項）
 - ・研究推進
 - ・知的財産
 - ・産学公連携
 - ・総合科学実験施設
 - ・学術研究関係危機管理



山内 直樹

Yamauchi Naoki

副学長（学術情報担当）

大学情報機構長

- （所掌事項）
 - ・情報基盤整備
 - ・情報流通マネジメント
 - ・学術情報基盤整備
 - ・学術情報関係危機管理



内藤 博夫

Naitoh Hiroo

副学長（大学評価担当）

大学評価室長

- （所掌事項）
 - ・自己点検評価
 - ・第三者評価
 - ・大学評価関係危機管理



服部 幸夫

Hattori Yukio

副学長（国際・社会連携担当）

- （所掌事項）
 - ・国際連携
 - ・国際交流
 - ・社会連携
 - ・生涯学習
 - ・国際・社会連携関係危機管理



新理事・ 新副学長から のメッセージ



戦略的な予算配分で 大学の改革と活性化を図る

山口大学が地域の基幹総合大学として発展するために、教育、研究、地域・社会貢献および人類・国際貢献に成果があるような予算配分を心がけていきます。

法人化した平成 16 年度以降、国からの運営費交付金が毎年 1%以上削減されており、国立大学法人も厳しい状況の中にあります。現在、日本の大学は改革なくしては、国際的に評価される大学、人材養成機関には成り得ない状況にあります。教育、研究システムは、急激な改革を行って何かを求めるにはそぐわない部分もありますので、長期的視点で改革する必要があります。新しい取り組みを打ち出し、戦略的な予算配分することで、教育効果、研究成果を上げていくのが私の目標です。

研究経費については、大学自らが外部からいろいろな資金を確保する時代が来ています。現在打ち出している研究戦略により、本学では外部資金獲得の実績が上がり、研究成果も期待される状況にあります。

山口大学は 2015 年に創立 200 周年を迎えます。これを機に大学基金を設ける予定です。また、修学環境の整備にも力を入れ、将来はキャンパスに野外ステージを設け、講演会やコンサート等で、学内外を問わず、また異世代、異人種の様々な人々が集う「知の広場」を実現します。

新たな共通教育課程により 高度な教養人を養成

大学教育機構には様々な課題がありますが、その一つとして、共通教育課程の見直しがあります。これまで専門的分野を学ぶ高年次教育に傾倒しがちで、共通教育はおざりにする傾向がありました。高度な教養を持った教養人の養成は、大学に課せられた使命です。現在、共通教育課程の見直しを進めているところで、平成 25 年度を目標に新しい科目による共通教育を始める予定です。

もう一つの課題として、経済的に苦しい状況の学生が年々増え、休学や退学を余儀なくされている状況があります。創立 200 周年をきっかけに大学基金の創設が予定されていますので、奨学金のさらなる充実がなければと考えています。

留学に関連することでは、現在山口大学は約 300 余名の留学生を抱えていますが、大学の国際化を目指して、留学生をもっと増やしていきたいと思います。また、日本の学生にも留学を強く勧めています。留学を経験することで国際文化を会得し、コミュニケーション能力を高めることができるのでないでしょうか。のために現在、アジアや欧米の大学と協定を結んでいます。提携した大学に学生を送り出すことで、国際化のシステムを構築したいと考えています。



村田 秀一

Murata Hidekazu

理事・副学長（財務施設担当）



額嶺 厚

Kōketsu Atsushi

理事・副学長（教育学生担当）

大学教育機関長

この度、新たに理事・副学長に着任された 5 人の先生方に、それぞれの担当部門の現状や課題、抱負などを語っていただきました。

科学研究費の採択率増と URA制度の導入を目指す

今回、産学公連携・イノベーション推進機構を再編して立ち上げた大学研究推進機構には、産学公連携センター、知的財産センター、および総合科学実験センターがあり、いずれも大学の教職員・学生の研究活動を幅広くサポートする役割を担います。

新機構の第一の目標としては、科学研究費の獲得増を考えています。具体的には、2年以内に現在の20～30%増を目指します。先生方の頑張りもあって科学研究費の採択率は年々上がっており、平成23年度は新規分の採択率が約29%で過去最高の数値でした。さらに、一昨年から各部局と連携して若手研究者の申請書のブランクアップを始めていますが、ブランクアップを受けた研究者の採択率は2年間の平均で約47%と大幅に改善しました。文部科学省の基本的施策であり、研究者にとって最も利用しやすい科学研究費補助金のアップは、研究の活性化＝大学の活性化につながりますので、さらに伸ばしていくたいと思います。

また、大学リサーチ・アドミニストレーター（URA）制度の導入も行います。URAは、研究プロジェクトの形成、研究成果の知財化、研究契約、研究資金獲得、法令遵守などを総合的にマネジメントして、研究者を支援する職種なのですが、アメリカでは15万人が活躍し、研究者が研究活動に専念できる環境を作っています。日本の大学では昨年度からようやくURAを導入する動きが始まり、山口大学でも5月には大学研究推進機構内に設置する研究推進戦略部にURA部門やURA支援事務部門を立ち上げ、独自のURA制度の構築を目指しています。また、博士課程学生に新たな就職先の道を開くという意味でも、専門性の高いURA制度は活用できるのではないかと考えています。



三池 秀敏

Miike Hidetoshi

理事・副学長（学術研究担当）

大学研究推進機構長

図書の整備や資産のデジタル化で教育と研究をサポート

大学情報機構長として、図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館の3施設を担当します。機構としては、学生が調べ物をしてレポートを書いたり、先生が研究する中で文献や書籍を調べたりするのをサポートするのが大きな役割です。教育と研究をしっかりフォローできるよう、電子ジャーナルの充実や図書の整備を進めています。

また、大学が持っている書籍や文書、絵画、彫刻、標本などの学術資産の継承事業も行っており、これらの資産をいかに公開していくかを進めています。展示するだけでなく、デジタル化してデジタル博物館のようなものができるればと考えています。

本学は、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の国際認証を2008年に取得しました。早くから情報セキュリティには力を入れており、静岡大学、宇都宮大学に続き、全国で3番目の認証取得となりました。昨年の大震災以降、データのバックアップの必要性が求められていますので、バックアップ事業を今後進めていく必要があると思います。静岡大学とは既に合意書を交わしております、鹿児島大学とは双方で実験を行っているところです。国際認証の信頼を武器に、バックアップセンターとしての役割も将来担うことができればと思います。



山内 直樹

Yamauchi Naoki

副学長（学術情報担当）

大学情報機構長

積極的に海外へ留学できるよう大学側も支援

山口大学には、海外からは留学生がたくさん来ますが、日本から海外に留学する学生が少ないと感じます。全国的に日本の学生は内向き志向と言われていますが、山口大学でも同様の現象が起きています。21世紀は国際化の社会ですが、内向き志向はそれに逆行しているのではないかでしょうか。日本の若者は積極的に海外に行き、外から日本を見直してほしいですね。大学側も日本の学生ができるだけたくさん留学できるよう、奨学金の充実、学生が望む留学先の開拓、留学に関する緻密な情報提供を行っていきたいと思います。

一方、山口大学に留学した後、自國に帰った留学生に関しては、つながりもなくそのままになっている現状があります。各国で同窓会を設立して仲間と交流しながら、母国で活躍してほしいと考え、昨年から同窓会を順次立ち上げています。大学側も同窓会が継続できるように応援していきます。

国際交流と社会連携は、実は関連があります。留学生に対して、地域の方が日本の文化を体験できる企画を用意したり、留学生が母国の料理を振る舞う機会を設けてくださったりして、留学生がとても喜んでいます。国際交流を通して、学生だけではなく地域の方にも様々な経験をしていただければと思います。



服部 幸夫

Hattori Yukio

副学長（国際・社会連携担当）

平川地域での本学の連携活動

取組事例 1

■平川地区との懇談会の開催

平川地区と山口大学の連携強化を目的として、平成 20 年度から平川地区との懇談会を実施しています。懇談会では、平川地区と本学の連携活動報告や活動計画の説明、平川地区から本学への要望・協力要請、意見交換等を行いました。相互理解と連携強化が確認され、今後も一層交流を深めていくこととしています。

(平成 23 年度実績)

実施日：平成 23 年 7 月 7 日(木)

参加者：平川地区…各団体の代表者 20 名

山口大学…国際・社会連携担当副学長ほか 11 名



取組事例 2

■平川での「まちあるき」を実施

平川地区住民の自治組織である平川コミュニティ推進協議会と山口大学の学生とが協働し、平川地区のまちづくりを考えていくという取り組みが平成 23 年度からスタートしました。その第一歩として、まずは地域の現状を知ろうと、平成 24 年 3 月 7 日、学生 17 人が協議会のメンバーと共に平川地区的まちあるきを実施しました。今後は、定期的にまちあるきやまちづくりのためのワークショップを開きながら、平成 26 年度までの完成を目指して、平川地区的まちづくり計画の策定に参画していきます。



取組事例 3

■おいでませ！山口国体・山口大会「花いっぱい運動」への参加

平成 23 年 10 月に開催された「おいでませ！山口国体・山口大会」への来場者を歓迎するために、平成 21 年度から県内各地で展開された「花いっぱい運動」。山口大学も平成 22 年度からこの運動に参加しました。

(平成 23 年度実績)

実施日：

平成 23 年 7 月 13 日(水)

ポットへの植え替え作業

平成 23 年 8 月 2 日(火)

プランターへの植え替え作業

9 月中旬

プランターを大学正門・体育馆周辺に飾花し、その後、水やりを含む花の管理を、総務部人事課業務支援室のスタッフが中心となって行いました。



山口大学では、大学本部が立地している山口市平川地区での様々な連携活動を行っています。平川地区的行事に学内関係者が参加したり、懇談会を開催したり、地域の方々と交流することで、より良好な信頼関係・協力関係を維持しています。

取組事例 4

■平川地区ふれあいクリーン作戦への参加

平成 20 年度から社会貢献活動の一環として、平川地区ふれあいクリーン作戦に参加し、地域との連携関係を深めています。毎年、春と秋の 2 回実施している清掃作業に平成 23 年度も参加しました。今後も教職員や学生に参加を呼びかけ、地域と協力して、平川地区的環境整備に努めるとともに、地域の期待に応える社会活動を推進していきます。

(平成 23 年度実績)

実施日：平成 23 年 5 月 15 日(日)・・・約 30 名の参加

平成 23 年 8 月 28 日(日)・・・約 20 名の参加

※平成 23 年度は、山口固体・山口大会が行われたこともあり、秋の実施が夏(8 月 28 日)に行われました。



取組事例 5

■桜花爛漫～維新伝心プロジェクトへの紹介



本学では、吉田キャンパス北側を「国際・社会連携ゾーン～コミュニティー広場」として整備し、学生・教職員はもちろんより、本学OB や地域の方々に広く開放しています。この整備の一環として、正門から大学会館、吉田寮北・東側斜面に桜を植樹し、環境に対する理解と本学に対する愛着、さらには地域や社会との「共育」を推進するため、2 年前より、広く寄附金（分割：寄附総額 55,000 円、一括：寄附額



50,000 円）を募っています。なお、寄附を頂いた団体や個人の方へは、そのご厚意に報い永く顕彰するため、桜木にネームプレートを取り付け、その成長を隨時お知らせしています。

詳しくは、本学のホームページをご覧になるか、財務部経理課経理係（TEL:083-933-5105）までお問い合わせください。

報道を仕事にするということ

センパイたちはどんな仕事に就いているの？

在学中はどのように過ごしていたの？

そこで、「考える就職活動」平成24年度第1回目は、山口大学を卒業後、山口のテレビ局に就職し

報道の現場でご活躍される徳本裕司さんに

現在の仕事に就いたきっかけや

テレビ局の仕事内容について

お話を伺いました。

Q1.これまでにどのような仕事を担当されたのか教えてください。

A. 入社当初は、徳山支局の報道制作部で記者をしていました。その後、様々な部署に配属となり、本社の報道制作部で制作に携わったり、編成業務部で広報を担当したり、営業セクションを経験したこともありました。直近では、デジタル事業推進室でウェブやモバイル、データ放送等を連携させた新しいビジネススタイルを構築する業務や、業務推進部でイベント関連業務に携わっていました。現在は、報道制作局報道担当部長として、主に記者に取材の指示を出し、原稿と内容を決め放送まで結びつける仕事をしています。

Q2.報道の仕事ではどんなところにやりがいを感じますか？

A. 報道を通して皆さんに喜んでもらえることに、やりがいを感じます。取材して報道することで、取材対象となった方から感謝の言葉やお礼の電話をいただくことがあります。間接的ではありますが、報道することで人の役に立っていると実感ですね。番組を見る方に対して、日常生活のちょっとしたことをニュースソースにして報道することで、生活の一助にしていただければ幸いです。ただ、大きな事故や事件があると夜間でも仕事をすることもあり、生活のリズムが一概しないところは辛いですね。

Q3.現在の会社に入ったきっかけは？

A. 学生時代にテレビ局で約3年アルバイトをしていたことがあります。それでこの仕事が好きになったのがきっかけです。仕事内容は、取材補助だったのですが、最終的には編集もするようになっていま



徳本 裕司 Tokumoto Yuji

山口県山口市出身。山口大学経済学部経営学科を卒業。平成5年に山口朝日放送株式会社に入社し、現在20年目。今年4月から、報道制作局報道担当部長。

したね。就職活動では、パイロットに憧れて試験を受けたり、海外の仕事がしたくて商社も受けたりしましたが、地元で自分が好きなことを仕事にして生活できるなら、それが一番幸せだと思い、現在の会社に就職しました。

Q4.アルバイト時代と就職してからは考え方には変化はありましたか？

A. アルバイトの頃とは仕事のレベルが全く違います。アルバイト時代は基本的に指示があって動くのが当たり前でしたが、今は指示待ちではなく、自分から動いていかないと物を作り上げていくことはできません。作り上げるものに対して、どう進めていくかは自分で考えて組み立てないといけません。ハードルも高くなりましたが、責任も大きくなりました。

Q5.最後に、学生へメッセージをお願いします。

A. 自分が興味を持った仕事には、少しでもいいので実際に関わってみて下さい。アルバイトをしてもいいですし、関係する人たちに会うのもいいと思います。できるだけいろいろな経験をすることで視野が広くなり、職業選択の可能性も広がってきます。その中で自分に合う職業を選ぶのも一つの方法だと思います。自分の気持ちに正直になって職業は選んでほしいですね。



就職関連情報

■贈答エントリーシート勉強会

対象：大学院1年生・学部3年生

ダイヤモンド・ビッグ＆リーク：就活ナビの「商矢一朗先生」による勉強会を次のとおりの日程で開催します。大手企業・有名企業のいわゆる「難関企業」の採用活動の状況や、今から行うべき就職活動準備についてお話しいただくとともに、課題エントリーシートについて解説していただきます。また、勉強会終了後には、皆さんからの質問にお答えする時間をとる予定です。この機会を皆さんとの就職活動にお役立て下さい。

■日 時：2012年6月13日(水) 16:10～18:10

■場 所：共通教育棟41番教室

■参加方法：参加希望者は「課題エントリーシート」を就職支援室に提出して下さい。この提出をもって、参加申込完了とします。提出したエントリーシートは勉強会当日にお返しします。

※課題エントリーシートは就職支援室にて配布します。

■主催：学生支援センター／就職支援室



YU-PRSS!

NEWS&TOPICS

私たち学生スタッフが、山大の最新の話題やニュースをお届けします！

01

<『創基200周年』情報>

「第1回フォトコンテスト」の受賞作品が決定！

山口大学創基 200 周年記念事業第 1 回フォトコンテスト写真で残そう！
山だなう～山口大学の“今”を永遠に～を実施し、応募期間である平成 23 年 10 月から平成 24 年 3 月の間に多くのすばらしい作品の応募をいたしました。

このたび、そのすばらしい作品の中から、厳正な審査を経て受賞（金賞、銀賞および銅賞）作品を決定しました。

詳細は以下の創基 200 周年の Web ページを御覧ください。

[創基 200 周年 HP : <http://www.yamaguchi200.jp/>]



<金賞>
「金色（こんじき）の秋」



<銀賞>
「明け方の宇部市内とドクターヘリ」



<銀賞>
「笑顔のチカラ」



<銅賞>
「山口大学工学部と共に」



<銅賞>
「大学会館前の桜」



<銅賞>
「夕日」

02

嶺嶽理事・副学長（教育学生担当）が
翻訳書を出版！

【翻訳書名】

- ・『何謂中日戦争』
- 中国北京市：商務印書館（2012年2月、全262頁）
- ・『近代日本政軍事関係研究』
- 中国北京市：社会科学文献出版社（2012年3月、全387頁）

上記の書物は、元 人文学部教授（現在、理事兼副学長（教育学生担当））である嶺嶽厚先生の最新翻訳書です。

『何謂中日戦争』は、2007 年に同時代社から出版された『「日本は支那をみくびりい」日中戦争と何だったのか』の翻訳書です。中国では中華書局と並ぶ老舗の出版社である商務印書館から出版されました。アジア太平洋戦争の敗北と陥落をめぐる歴史の検証を通して、新たな日中戦争史論を提起されており、台湾でも早く翻訳出版され注目されている本です。

『近代日本政軍事関係研究』は、嶺嶽先生の主要な研究テーマである政軍関係研究の集大成として、2005 年に岩波書店から出版された『近代日本政軍関係研究』の翻訳本です。著名なアメリカの政治学者サミュエル・ハンチントンが提起した政策関係論（Civil Military Relations）を踏まえ、これを一層発展させて日本における政軍関係の新たなモデルを構築した「理論編」と、政軍関係史研究の視点から昭和初期にかけての実際の政治過程分析を膨大な資料や文献を用いて論述した「実証編」から構成されています。本書の紹介文として、嶺嶽教授の研究仲間で知人である北京大学歴史系の徐勇教授が極めて詳細な解説文を寄せられています。嶺嶽教授は既に同書を先に翻訳し、北京大学で二度ほど集中講義を行っているとのことです。



【YU-PRSS（ユープラス）とは？】『キャンパスライフ』、『ワイルドフォメーション』の制作に携わる山口大学広報学生スタッフです

YU-PRSSメンバー

黒江 那津子／佐々木 裕美／久保田 法尋／入江 貴博／国本 壱／長岡 寧緒子／渕口 明音／河原 あかね／前田 刈乃／吉岡 優一／石井 沙希／中富 真貴／城村 ひとみ／長岡 真大

■追加メンバー募集中！

主な仕事は、山口大学のホームページ内に毎週更新されている「キャンパスライフ」ページの作成と山口大学報紙「ワイルドフォメーション」の制作補助です。取材・撮影・記事執筆といった、企画・編集業務に興味のある方、一緒に活動してみませんか？詳しくは下記アドレスまでメールしてください。

E-MAIL : campus@yamaguchi-u.ac.jp キャンパスライフ URL : http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/

■感想、取材依頼などお気軽にメールしてください！

今月についての感想や、今後こういった特集はどうぞうろこいたいアドバイス、こんな人を取材して欲しいといったご要望も受け付けております。また、「私たちを取材して欲しい」といったサークルやグループも大歓迎です！たくさんのメールをお待ちしています。

「志」つなぎ伝える
二百年



～2015年に山口大学は創基200周年を迎えます!～

YU-INFORMATION
2012 MAY No.107

山口大学広報誌